

外部評価個票

資料3－④																		
事業名	プロスポーツ支援事業費			開始/終了(予定)年度		H9 / 未設定		成果指標及び 成果実績	成果指標		単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終目標)	
グループ名	プロスポーツ活用「やまがた」発信事業						①ホームゲーム入場者数 (一試合平均) モンテディオ山形 9,000人		実績	人	5,082	6,451	8,318	10,265	10,776			
部局・担当課名	観光文化スポーツ部スポーツ振興課								当初見込み	人	5,000	8,000	7,500	9,000	11,500	未設定		
創設背景 (課題)	総合発展計画の柱である競争力のある力強い農林水産業の振興・活性化のためには、県産農畜産物の戦略的なブランド化が必要である。スポーツ振興課としては、ユニフォームスポンサーとしての支援を通して、プロスポーツの振興を図る必要がある。※『山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部』にJ Aグループと共同で負担金を支出						②ホームゲーム入場者数 (一試合平均) 山形ワイヴァンズ 1,500人		実績	人	796	1,130	1,640	1,725	1,574			
									当初見込み	人	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500		
事業の目的	県内を本拠地として活動するプロスポーツチーム（モンテディオ山形、山形ワイヴァンズ）の発信力を活かして全国に県産米ブランド（つや姫、雪若丸）をPRするもの。併せてプロスポーツの振興を図るもの						③		実績									
									当初見込み									
事業概要	<モンテディオ山形ユニフォームスポンサー負担金> 【支援対象者】 株式会社モンテディオ山形 【支援要件】 ユニフォームに県産米ブランド（つや姫・雪若丸）のロゴを掲出した場合 【支援内容】 ユニフォームスポンサー負担金（県上限45,840千円、総額76,540千円） 【最終受益者】 農業従事者、ファン（サポーター）  <山形ワイヴァンズユニフォームスポンサー負担金> 【支援対象者】 株式会社バスラボ 【支援要件】 ユニフォームに県産米ブランド（つや姫・雪若丸）のロゴを掲出した場合 【支援内容】 ユニフォームスポンサー負担金（『山形「つや姫」「雪若丸」（県上限2,801千円、総額5,051千円） 【最終受益者】 農業従事者、ファン（ブースター）						④		実績									
									当初見込み									
						成果指標設定の考え方												
						プロスポーツ振興の目的の1つである「県民がスポーツに触れる機会の創出」の成果を測定するため、各チームの入場者数を指標として設定。 ※上記表の令和7年度実績値は10/26(日)終了時点												
補助概要	補助率 (最終受益者に対する補助率)		県の裁量の有無		補助の相手方		執行率50%未満の場合の要因分析											
	(負担金)		○		モンテディオ山形 山形ワイヴァンズ													
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度											
当初予算額 (単位:千円)			48,641	48,641	48,641	48,641	48,641											
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金																	
	県債																	
	その他特定財源																	
	一般財源		48,641	48,641	48,641	48,641	48,641	48,641	48,641									
計		48,641	48,641	48,641	48,641	48,641	48,641	48,641										
決算額 (千円単位)			48,641	48,641	48,641	48,641												
執行率 (%)			100%	100%	100%	100%	0%											
事業所管部局による評価・検証（令和7年度9月末まで）																		
項目			評価 (ABC)	評価に関する説明				課題	県産農畜産物の戦略的なブランド化、プロスポーツの振興が引き続き必要									
業 の マ イ ン	①長く継続し、社会経済情勢の変化とミスマッチになってないか。 (開始時から社会経済情勢の変化を考慮して、継続するのは妥当か。)		A	力強い農林水産業の振興・活性化のためには、県産農畜産物の戦略的なブランド化が引き続き必要である。また、プロスポーツの振興も引き続き必要である。														
	②当初の目的や役割を一定程度達成しているのではないか。 (当初の目的・役割の達成程度からみて、継続するのは妥当か。)		A	力強い農林水産業の振興・活性化のためには、県産農畜産物の戦略的なブランド化が引き続き必要である。また、プロスポーツの振興も引き続き必要である。														
	③人口減少を受けて受益者が減少し、コストに見合っていないのではないか。(開始時から受益者が減少しても、継続するのは妥当か。)		A	モンテディオ山形、山形ワイヴァンズともに、スポンサー料の定価より大幅に廉価な金額で契約を締結することができており、広報効果を踏まえると、コストパフォーマンスが高い事業である。また、各チームへの直接的な支援となり、プロスポーツの振興に効果的な事業である。														
検証 の ポ イ ン	④課題に対する事業手法は妥当か。		A	県産農畜産物の戦略的なブランド化とプロスポーツの振興の双方に、ユニフォームスポンサーとしての支援を実施することは妥当である。				今後の 対 応	継続実施									
	⑤成果指標と目標値の考え方は妥当か。		A	「県民がスポーツに触れる機会の創出」はプロスポーツ振興の目的の1つであるため、各チームの入場者数は成果指標として妥当である。また、目標値について、各チームが公表している数値に基づくものであり妥当である。														
	⑥「執行率が50%未満の場合の要因分析」の内容・手法は妥当か。			-														

(評価基準)「A:妥当性が高い/B:おおむね妥当である/C:妥当性が低い」